



No.19 2019.10.11

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

第2回コミュニティ・スクール自主研修会速報

10月8日(火)に兵庫教育大学小西教授をお招きし、2回目のコミュニティ・スクール自主研修会を開催しました。研修会には、市内小中学校の先生方をはじめ、まちづくり協議会など地域の方だけでなく、まちづくりを支援されているまちづくり創造協会や地域の人権啓発に関わる人権推進課からの参加もあり、つながりの輪が広がってきました。研修では小西先生より前回の研修を振り返りながら、様々な実践例を紹介していただいた後、コミュニティ・スクールをすすめる中で熟議の果たす意義をお話をさせていただきました。その後「学校は誰のもの？」をテーマにグループに分かれ熟議を行いました。

第2回目の研修会を終え、コミスクのイメージが重なりながら、少しずつ理解が深まってきたといった感じではないでしょうか。研修を終えてのみなさんからいただいた感想を紹介させていただきます。多数共通して書かかれている内容や、部分的に取り上げた内容を紹介しますがご容赦ください。

Q1.コミュニティ・スクールについての新たな認識等

- ・コミュニティ・スクールが学校を拠点として、学校と地域を結び付け、子どもの育成活動を行うことにより、地域も発展する。そのためには共通の目標ビジョンを育む必要があり、そのための熟議が非常に重要であると認識した。
- ・子どもが中心であることは間違いないと思いましたが、地域や住民、保護者の思いを大切にしていきたいとも感じました。
- ・地域の方から見た学校の敷居の高さ、学校どうすれば開かれるのか。卒業生を含めて帰属意識を持っている人がいること。
- ・学校は子ども・地域のものと考えていましたが、色々な意見を聞き、保護者や納税者にも、もっと関心を持ってもらえるよう、考えていくことも大事なのだと気付きました。共通意識の大切さを知りました。
- ・人生100年を豊かに生きる人を育てるため学校のあり方をみんなで考えていく場。
- ・まだ実感がありませんが、少子化で学校の存在意義も変わるのだと思った。人生100年時代をだれも豊かに生きられるように考えないといけないのだと思った。
- ・今日は「学校で何ができるか？」という焦りよりもドーンと構えて地域でみんなで話せばいいんだ、という感覚がもてました。
- ・コミスクを充実させるための三原則「熟議」「協働」「マネジメント」のキーワードのもと当事者意識を持つことが改めて大切だと感じました。当事者意識、なかなか難しいと思いました。
- ・学校教育が変革していくのかなと思いました。自分の知っている枠組みでは取まりきれない要素がこれからの子どもたちに必要となってくる(社会教育、家庭教育で求められることも)。制度・考え方、併せて変わっていくと思いました。
- ・地域住民は家庭・家族意識で生活していく(動く)ことが最重要であるという人をどうしたらCSに参加してもらえるか、子どもの人間形成にとって地域の人々の力が重要であるという認識を親に知らせる行動が重要であると思う。
- ・色々な立場の方と熟議することで自分とは違う考え方にふれ、新たな気づきがありました。このようなことを地域の方とできればお互いの距離が縮まり理解が深まることが分かりました。
- ・人生100年時代という大きなスパンで、今できることを考える視点はこれからの時代とても大切だと考えた。それぞれの人生のステージにおいて常に地域とのつながりを意識し、これを社会の当たり前にしていくことを後押しできる仕組みも必要でないかと考えた。



Q2.勤務校（校区の学校）のコミスクの取組み状況

- ・コミスクが結成されたが、内容の取組みまでに至っていない。地域の人にコミスクがあると理解されておらず、熟議に至っていないため、マネジメントが発揮されず協働になっていない。まずはコミスクの理解を深めることと熟議からスタートさせると、何か見えてくるかもしれない。
- ・学校運営協議会を行っている。しかし、どのようなことが行われているか教職員にはまだ伝わっていない。
- ・まだまだコミスクの理解がないのが現状。学校・保護者・地域のもつベクトル自体が見えない状況にある。



Q3.ミニ熟議を経験されて

- ・学校は誰のもの？考え一つでいろいろな意見が出た。子どもの育成の場で子どものためのもの？地域のもの？子どもから大人までが学ぶ場でみんなのもの？一つのテーマでいろんな考え方があり、それぞれの意見がみんな正解とすれば、熟議をすることの大切さが身にしみてくると思った。
- ・地域の方と話をする中で、学校に入るのが難しいという意見を聞き、地域からの見方を知ることができた。
- ・自身の視野の狭さを感じた。社会に開かれた教育課程をお祭りのな打上げにならないように、じっくり考えて取組んでいきたいと思いました。
- ・地域の方の意見は知っているようで知らなかったのが正直驚きでした。それ分かったことがよかったですと思います。
- ・様々な意見があり、自分の考えが及ばないようなものもあり、色々な発想があり、そういう考えに触れられて楽しかったです。
- ・「正解」ではなく「納得解」の共有について少しわかったような感じです。校長会・教頭会で研究グループを立ち上げてその成果を見せてほしい、それこそリーダーシップでしょう。
- ・とても楽しく話ができ、勉強になりました。自分では全く考えつかない意見が聞いて刺激になりました。何より、全然知らない人と話ができ、知り合えたことが良かったと思います。これこそコミスクですね。
- ・日頃考えたこともないようなことを考える機会を与えて頂けて良かったです。また、他のグループの考えも聞いて良かったです。
- ・視野が広がり、正解でなく、納得し合うことの楽しさを知りました。
- ・「学校は誰のもの」と考えたことがなかったので、他の班の発表を聞いたりして、なるほどと思うことがたくさんありました。将来を見据えて地域と共にある学校運営を考えなければならぬと思いました。
- ・グループの中では年齢も職種、立場など様々な方がおられたので、普段自分が考えていることとして、ちがった見方・考え方が話せて良かったです。熟議しているうちに、学校、子ども、保護者、地域など考え直す良い機会になった。また学校に帰っても教職員・保護者地域の人と話すきっかけにしたい。
- ・「熟議の時間がもつといる！」と思いました。みんなの考えをじっくり聞きたいなと思いました。前回は思いましたが、職種や立場の違う方との話し合いはドキドキしますが、新しい発見があり、次からどうしようかなと楽しみになりました。
- ・もつと時間をかけて理解・納得ができるような話し合いがしたい。
- ・熟議した事項は非常に大切なものである。これを行動に移すためにどうするかを熟議したい。地域住民が物言う場が少なすぎる。多くの人とかかわりを増やしていきたい。親と教師と地域住民との対話を増やすことが重要と感じる。
- ・短時間でしたが内容の濃い話し合いができました。グループ分けやテーマ設定によって話し合いの中身が変わってくると感じられます。実際のコミスクでの熟議でも広く参加者をつのり、司会の方を中心に熟議が深まるよう力量を高めます。
- ・様々な立場からの意見が聞いた貴重な体験となった。多様な考えから方向性を導き出すことができると感じた。学校が特殊な存在（ガラパゴス）から脱却し、社会に広がることができる可能性を感じた。



次회가最終回です。明石の子どもたち、学校をテーマにした熟議を予定しています。
たくさんの方に職種・年齢・立場を超えた熟議を体験していただけたらと思っています。
想像し創造できる力をつけるために！！